

APIR Now

活動状況 2016年10月-12月

海外訪問者、急増!

この3カ月の海外からの訪問は5件、人数にして20名を超えました。他団体での海外訪問者に対する講演依頼も増えています。「日本経済・関西経済を英語で語るAPIR」として、着実に存在感を増しています。



□ は本文に関連記事を掲載。

- 10月4日 事業報告・関西経済白書発表会
- 10月7日 ABEイニシアティブ(African Business Education Initiative for Youth)研修報告会(タンザニアから3名の研修生を受入れ) [1]
- 10月17日 「アジアの成長に資する開発金融」第3回研究会
- 10月18日 「交通インフラ整備の経済インパクト分析」第3回研究会
- 10月19日 講演会「エネルギー・環境イノベーション戦略とCCS技術」(関西経済連合会との共催)
- 10月19日 研究会「エネルギー・環境イノベーション戦略」(関西経済連合会との共催)
- 10月21-22日 AOYA会議
- 10月25日 「国際経済統合とベトナムの銀行部門・健全なシステムへの道」第2回研究会
- 10月25日 「アジアの知日産業人材との戦略的ネットワーク構築」第3回研究会
- 10月27日 山下かおり主任研究員(ダイキン工業)が広島県留学生活躍支援センター主催「留学生生活セミナー」で「高度外国人材の活用に向けた採用と育成について」と題して講演
- 10月28日 関西労働研究会
- 11月5-6日 Cao Thi Khanh Nguyet研究員が東アジア経済学会第15回国際大会で「What determines credit obtainment from formal credit for Vietnamese small and medium enterprises?」と題して発表
- 11月14日 カナダ産産審議会シニアフェロー Glen Hodgson氏との意見交換会 [2]
- 11月15日 設立5周年記念シンポジウム「アジア太平洋と関西」およびパーティ
- 11月17日 「大阪におけるTPP本部創設の必要性と可能性」海外調査報告会
- 11月18日 フィリピン大学大学院生との意見交換会 [3]
- 11月21日 「アジアの成長に資する開発金融」第4回研究会
- 11月22日 第3回マクロ経済分析プロジェクト研究会兼「関西独自景気指標の開発と積極的な活用」研究会
- 11月22日 稲田義久センター長が関西ベンチャー学会主催「成長戦略に資するベンチャー企業の創出と育成～関西経済白書2016から～」と題して講演
- 11月24日 林 敏彦研究統括が関西経済連合会「タイKPI研修視察団との懇談会」において講演・意見交換
- 11月25日 「都市インフラとしての食糧提供システム」第2回研究会
- 11月25日 関西労働研究会
- 11月28日 ベトナム共産党政治局代表団との意見交換会 [4]
- 11月28日 「関西における女性就業率の拡大に向けた提言」第4回研究会
- 11月28日 大野 泉上席研究員(政策研究大学院大学)が「関西アジアフォーラム」(関西連アセアン経営研修 特別フォーラム)のセッション①で問題提起
- 11月29日 「第110回景気分析と予測」,「Kansai Economic Insight Quarterly No.32」記者発表
- 12月1日 大野 泉上席研究員(政策研究大学院大学教授)、後藤健太上席研究員が「関西アジアフォーラム」(関西連アセアン経営研修 特別フォーラム)のセッション③でコーディネーターとして参加
- 12月2日 近畿財務局長 美並義人氏との意見交換会
- 12月2日 「関西の大学のあり方」第3回研究会
- 12月5日 下條真司上席研究員(大阪大学教授)が関西経済連合会「評議員会」で「都市におけるIoTの活用—新しい幸せのデザイン—」と題して講演
- 12月6日 米国大使館経済・科学担当公使Nicholas Hill氏との意見交換会 [5]
- 12月6日 「交通インフラ整備の経済インパクト分析」第4回研究会
- 12月7日 「アジアの知日産業人材との戦略的ネットワーク構築」第4回研究会
- 12月9日 APIRフォーラム 景気討論会「不確実性高まる世界経済:魅力ある関西の将来ビジョンを語る」
- 12月13日 「環太平洋経済連携協定(TPP)と東アジア経済統合」第3回オープン研究会
- 12月15日 講演会「カーボンプライシングを考える」(関西経済連合会との共催)
- 12月15日 研究会「カーボンプライシングを考える」(関西経済連合会との共催)
- 12月15-16日 Cao Thi Khanh Nguyet研究員が第5回ベトナム学国際コンファレンスで「What determines credit obtainment from formal credit for Vietnamese small and medium enterprises?」と題して発表
- 12月16日 研究推進委員会
- 12月16日 関西労働研究会
- 12月22日 木下祐輔研究員が神戸都市問題研究所主催「第1回 都市問題セミナー」で「関西経済白書2016」から見る関西と世界の行方」と題して講演

インサイト 詳細はホームページへ。

[APIR Trend Watch]
12月2日 No.40 「不動産価格指数と住宅着工に見る関西の住宅動向」林 万平

[APIR Discussion Paper Series]
11月30日 No.45 「What factors determine whether SMEs obtain credit from formal credit market?—The case of Vietnam—」Cao Thi Khanh Nguyet

編集後記

APIRは昨年、設立5周年を迎えることができました。関係各位に改めて御礼申し上げます。一方で、世界の動きに目を転じてみれば、昨年は英国のEU離脱決定、米国の大統領選挙に代表される「不確実性」が言われ、今年に入れば「転換点」という文字が新聞紙面に踊ります。先の見えなさに不安が募りますが、同時にまた、自分がこの「転換点」

のただなかにいるのだと考えると、静かな興奮を覚えます。しかも子供でも老人でもなく、社会を担う責任ある大人として。この「転換点」を過去として振り返る時がいずれ来るでしょう。その時に、「転換点」で自分が何を考え、何をしていたか、悔いなく振り返ることができるようにしたいと思います。本年もAPIRをよろしく願い申し上げます。(真鍋)

表紙について — 朝日に向かって進むAPIR号 —

帆船は、舵を切る者、帆を操る者、風を読む者など、各自が仕事をこなして初めて動きます。そして航海長の指示が船の行先を定めます。APIRが次の5年に向けて目標を定め、チームワークを発揮して進んでいこう—そんな思いを込めました。

APIR Now No.10/2017年1月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH



評議員会会長: 井上礼之
(ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)
理事・所長: 宮原秀夫(元 大阪大学総長)
代表理事: 榎原則之
研究統括: 林 敏彦(大阪大学名誉教授)、猪木武徳(大阪大学名誉教授)
数量経済分析センター センター長: 稲田義久(甲南大学副学長)

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階
TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ推進部) FAX 06-6485-7689
E-mail contact@apir.or.jp ホームページ http://www.apir.or.jp

[発行] 一般財団法人 アジア太平洋研究所
発行人: 榎原則之
編集担当: 岡田直樹・真鍋 綾 (アウトリーチ推進部)

本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまでお寄せ下さい。
本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ホームページよりどうぞ!

次の5年に 向かってGO!

巻頭言
アジアの知の「共創」による
新たな「極」の形成を

西尾 章治郎 大阪大学 総長

- FEATURE-1 設立5周年記念シンポジウム 盛況に開催!
- FEATURE-2 AOYA会議を開催しました
- ECONOMIC FORECAST 第110回 景気分析と予測 / Kansai Economic Insight Quarterly No.32
- TOPICS INFORMATION



APIR

アジアの知の「共創」による 新たな「極」の形成を

アジアに新たな「極」を形成し、北米、欧州の二極体制から「世界三極体制」へ。
言語教育の強みを生かし、教育研究・学術交流でアジアにおける共創関係の強化を打ち出す、
大阪大学の西尾章治郎総長にお話をうかがいました。

アジアでの連携による 新たな極の形成が急務

APIRが2016年12月に5周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

APIRは設立当初から大阪大学と関係が深く、第15代総長の宮原秀夫先生が所長を務められ、研究統括、アドバイザー、リサーチリーダーに大阪大学の名誉教授、現職教授の方々が参画されています。

近年、国際政治、世界経済において、アジア太平洋地域が果たす役割はますます重要になっており、この地域の持続的な発展をサポートするというAPIRの目的に、私は強く共感しています。

なぜなら、私自身が教育研究活動において、アジアでの連携による、北

米、欧州に次ぐ新たな「極」の形成が急務だという認識を強く抱いており、大阪大学は今後その実現に向けて最大限の活動を展開していきたいと考えているからです。

アジアの大学が成長した 今こそ連携・共創の好機

そのような考えを抱いた契機は、8年ほど前に国のプロジェクトの一環として欧州諸国の研究機関を歴訪した際、ほぼすべての研究機関から共同研究の誘いを受けたことでした。このとき私は、この誘いの背景には欧州の研究者が世界を二極で捉えており、もう一方の極である北米と対抗するためにアジアとの連携強化を望んでいると理解しました。

教育研究に関してもアジアには欧米と異なる歴史や文化的背景があり、欧米に追随するのではなく、アジア独自の卓越した成果を生み出す方法があるはずだと考えています。そのためには、アジアの各大

学が連携、さらには共に創造活動を展開する、つまり、「共創」することにより新しい極を形成していくことが重要であると考えました。

私が大学教員になった1980年からしばらくの間は、アジアでは教育研究活動において日本が先行していました。しかし近年、中国、韓国、シンガポール、インドなどは急速な高度化を遂げ、一つの尺度でしかありませんが、これらの国のトップ大学が世界大学ランキングで日本より上位を占めるようになってきました。この事実は、日本の大学のランキングの相対的な低下という憂慮すべき問題提起と同時に、アジアの大学との知の共創による新たな極の形成が、今こそ好機を迎えていると捉えることもできるのではないのでしょうか。

アジアの11言語を学べる 大阪大学は連携の牽引役

2015年8月に総長に就任して以降、タイ、中国、台湾、マレーシアを訪問し、またアジアの大学関係者などの来訪を受けるなかで、アジアの有力大学との連携が最重要課題の一つであるという確信はさらに深まりました。

にしお しょうじろう 西尾 章治郎

大阪大学 総長

1980年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了（工学博士）。京都大学工学部助手、カナダ・ウォータールー大学客員研究助教授、大阪大学基礎工学部助教授などを経て、1992年同工学部教授。同サイバーメディアセンター長、同大学院情報科学研究科長、同理事・副学長などを経て、2015年8月大阪大学第18代総長。



大阪大学には、アジアでの連携を中核となって牽引できる大きな強みがあります。それは、アジアの11言語（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、日本語）を学べる環境が整っていることです。言語を学ぶということは、その国の歴史や文化を知ることです。アジアとの連携強化にこれ以上の強みはありません。

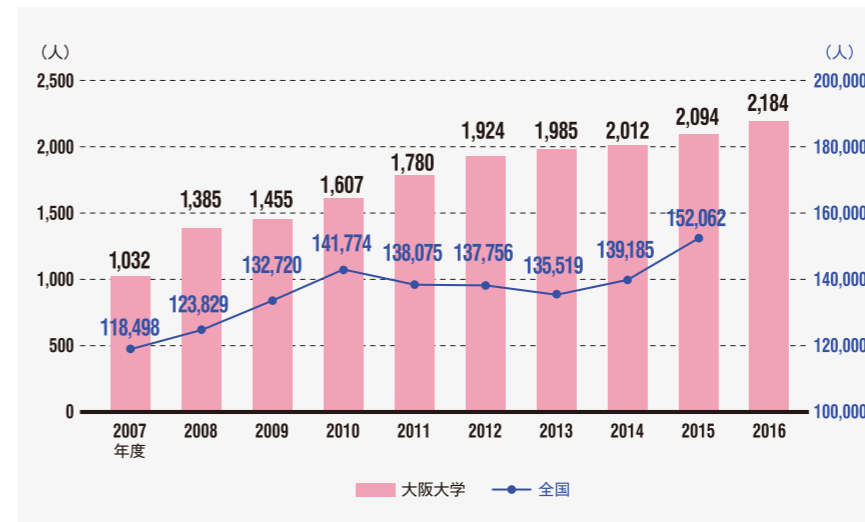
外国人留学生の受入れに関しても、日本全体では一時期減少傾向もあったなか、大阪大学は積極的な取

組みにより受入れ人数を常に増加させています。このうち、2016年度では、全体の約8割が中国、韓国、タイなどを中心としたアジアからの留学生です。最近では、来日せずに入学許可を得られる「海外在住私費外国人留学生特別入試」の実施をはじめ、アジア各国の奨学金制度と連動した留学生支援制度を採用するなど、アジアからの留学生の増加を図る取組みを促進しています。

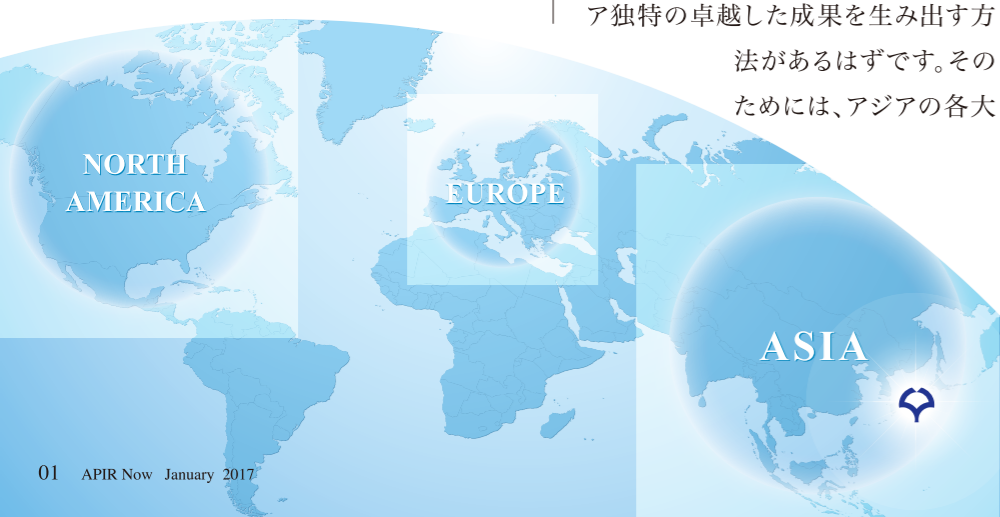
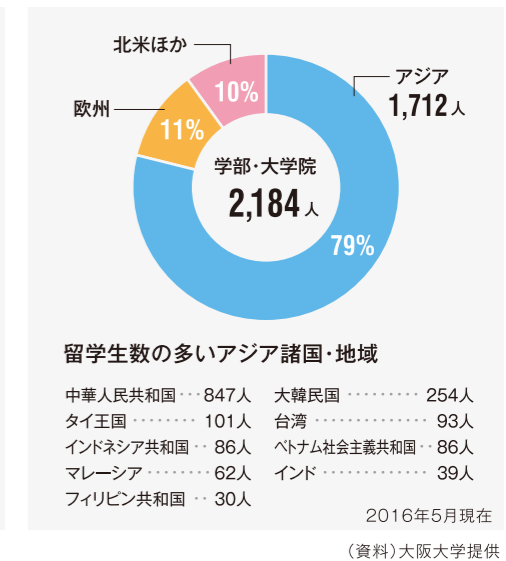
志を同じくする大阪大学とAPIR

アジアにおける共創を展開していくうえでの鍵は学生交流です。そのためには、奨学金などのサポート体制の強化が必須です。その意味でもAPIRが提唱された、「町衆の志」の結集による「関西国際奨学金基金」（仮称）の創設には、大きな期待を寄せています。大阪の産・官・学・民が力強く連携して、アジアに新たな極を形成していく、それが私の2017年の初夢です。

過去10年間の外国人留学生受入数の推移



海外からの留学生数



設立5周年記念シンポジウム 盛況に開催！

2016年12月1日、APIRは設立5周年を迎えました。それに先立つ11月15日、設立5周年記念シンポジウムを300名の参加者を集めて開催しました。多数のご参加、誠にありがとうございました。



パネルディスカッション

を考えると、地政学的な視点を軽視することはできない」とした上で、「米国がTPP離脱となればアジアへの影響力は大幅に低下し、中国の指導力が強くならざるを得ない」と述べ、最後に「地政学的にもアジアの重要な位置にある日本は、高齢化など難問を克服しつつアジアの国々と相互利益、相互尊重に基づいた発展を」と締め括りました。

基調講演後のパネルディスカッション「アジア太平洋の今とこれから」では、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）シニアエコノミストのPonciano S. Intal, Jr.氏、同エコノミストのLurong Chen氏、富士ゼロックスの渡辺美紀氏をお招きし、林 敏彦 APIR研究統括が加わり、コーディネーターを木村福成氏（ERIAチーフエコノミスト、慶應義塾大学教授、APIR上席研究員）が務めました。



〈挨拶〉
宮原 秀夫
APIR所長

宮原秀夫APIR所長の挨拶のあと、猪木武徳APIR研究統括による基調講演「地政学的に見た日本経済の過去と未来」を行いました。

基調講演で猪木研究統括は、「ひとつの経済社会の将来



〈基調講演〉
猪木 武徳
APIR研究統括



〈コーディネーター〉
木村 福成 氏
ERIA チーフエコノミスト
慶應義塾大学教授
APIR上席研究員



〈パネリスト〉
Ponciano S. Intal, Jr. 氏
ERIA シニアエコノミスト



〈パネリスト〉
Lurong Chen 氏
ERIA エコノミスト



〈パネリスト〉
渡辺 美紀 氏
富士ゼロックス



〈パネリスト〉
林 敏彦
APIR研究統括

設立5周年記念シンポジウム

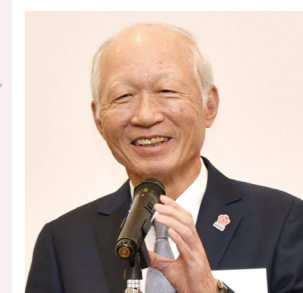
- 基本テーマ：『アジア太平洋と関西』 ■開催日：2016年11月15日（火） ■会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル ナレッジシアター
- 参加者：300名
- 次第：①挨拶／宮原秀夫（APIR所長）
②基調講演／「地政学的に見た日本経済の過去と未来」猪木武徳（APIR研究統括）
③パネルディスカッション／「アジア太平洋の今とこれから」
〈パネリスト（順不同）〉 渡辺美紀氏（富士ゼロックスCSR部企画推進グループ）、林 敏彦（APIR研究統括）、Ponciano S. Intal, Jr.氏（ERIAシニアエコノミスト）、Lurong Chen氏（ERIAエコノミスト）
〈コーディネーター〉 木村 福成氏（ERIAチーフエコノミスト、慶應義塾大学教授、APIR上席研究員）
- 後 援：大阪府、大阪市、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所、京都商工会議所、神戸商工会議所 ■協力：ナレッジキャピタル

日経、産経、毎日、産業、電気各紙に記事掲載されました。

パーティ也大盛況のうちに終了しました。

シンポジウム終了後はパーティを開催、角 和夫 関西経済連合会副会長（阪急電鉄会長）にご挨拶と乾杯のご発声をいただきました。こちらも200名近い参加者を得て大盛況のうちに終了しました。

〈ご挨拶・乾杯のご発声〉 角 和夫 氏
関西経済連合会副会長（阪急電鉄会長）

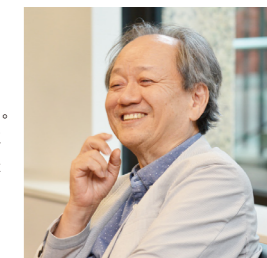


猪木武徳氏がAPIR研究統括に就任しました。

APIR設立当初からアドバイザーをお願いしておりました猪木武徳氏（大阪大学名誉教授）が、2016年11月1日付でAPIR研究統括に就任しました。猪木研究統括を迎えて、研究体制をより充実させ、さらなる進化をめざします。

猪木 武徳

京都大学経済学部卒業。マサチューセッツ工科大学大学院修了（Ph.D.）。大阪大学経済学部長、国際日本文化研究センター所長等を歴任。著書『経済思想』（岩波書店）、『自由と秩序』（中央公論新社）、『自由の思想史』（新潮選書）等。



AOYA 会議を開催しました。

～「真の情報源」はface to faceの「場」にこそある～



今年度から始まったAOYA会議。多様な分野の最先端を走る若手有識者を招き、会員企業、APIR関係者を交えて意見発表とディスカッションを行いました。トップランナー同士の「知のスパーク」は想像以上でした。SNSを介さない、face to faceの「場」の大切さを教えてくれた2日間でした。

- 開催日：2016年10月21日(金)・22日(土)
- 会場：ダイキンアレス青谷(鳥取県鳥取市)
- 参加者：49名
- 企画プロデュース：スーパーステーション
- 協力：ダイキン工業

第110回 景気分析と予測/Kansai Economic Insight Quarterly No.32

- 【日本経済】 7-9月期純輸出の上振れを反映し 成長率予測を上方修正
- 【関西経済】 足下は停滞局面続くも 先行きに緩やかな持ち直しの兆し



APIR内の研究ユニット、数量経済分析センター(センター長：稲田義久 甲南大学副学長)では、日本経済・関西経済の予測と分析を定期的に行っています。

2016年11月29日発表のAPIRの予測は以下の通り。

(単位%)	2016年度	2017年度	2018年度
全国GDP	1.0	1.1	0.9
関西GRP	0.6	0.8	1.1

関西の成長率は2016-17年度にかけて日本経済予測より下回ると見込む。所得環境の回復の動きが弱いことなどから民需の伸びは比較的緩慢である。また輸出の停滞から外需の寄与も全国に比べて小さい。一方18年度は、中国経済の復調で外需が伸び、全国よりも高い成長率を見込む。

関西の所得環境： 人手不足なのに1人当たり名目賃金はなぜ伸び悩む？

景気浮揚には個人消費の増加が必須であり、個人消費を左右するのは雇用者報酬である。関西では求人倍率や失業率が好転する中、1人当たり名目賃金は伸び悩む。構造的な要因を探ったところ、2014-15年にかけて新規求人数が増加した多くの業種で、相対的に賃金の低いパートタイム労働者の増加がみられた。特に急増する訪日客対応のためサービス業でのパートタイム雇用が増加し、労働者に占めるパートタイム労働者の比率が上昇した結果、1人当たり名目賃金の伸び悩みにつながっている。今後の消費増加には賃金上昇が不可欠であり、2017年度の春闘はそのカギを握る重要なイベントといえよう。

詳細はこちら 経済予測:Quarterly Report (日本) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-jp/>
経済予測:Quarterly Report (関西) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-kansai/>

日経、毎日、読売、神戸各紙に記事掲載されました。

テーマ 「才能」～今後の経済と都市における主役～

≫ 招聘有識者の「現在の取り組みと主張」

高橋恒一氏 (理化学研究所生命システム研究センター チームリーダー)
日本が得意な作り込みを活かして、汎用人工知能で勝機を掴め

大谷太郎氏 (YOKOITO代表取締役)
試作品作りの仕組みを変えて、「もの」づくりの可能性を広げる

鈴鹿可奈子氏 (聖護院ハツ橋本店専務取締役)
「味は伝統」、常に時代に合ったおいしさを作るのが伝統を守ること

帝都久利寿氏 (コネクフリー代表取締役総合開発責任者兼CEO)
人・モノ・場所をつなぐIoTが新しい世界を開く

飛鷹全法氏 (高野山高祖院住職/高野山三宝院副住職)
現代人が学ぶべき天才、空海の教え

小間裕康氏 (GLM代表取締役社長)
柔軟な発想で斬新なクルマを作る。未来をドライブするベンチャー

瀬尾拓史氏 (サイアメント代表取締役・医師、医療CGプロデューサー/サイエンスCGクリエイター)
「サイエンスを、正しく、楽しく。」難解な世界をわかりやすく伝える



1日目



2日目

01 APIRフォーラム：景気討論会 不確実性高まる世界経済：魅力ある関西の将来ビジョンを語る

恒例の景気討論会を東京からパネリストを招いて開催しました。

- 開催日：2016年12月9日 ■会場：グランフロント大阪 ■参加者：70名
- 次 第：「景気分析と予測：関西経済の短期見通し」稲田義久 (APIRセンター長)
「関西経済の中期展望 ～2020年」入江啓彰氏 (近畿大学准教授)
討論会「不確実性高まる世界経済：魅力ある関西の将来ビジョンを語る」
(モデレーター) 稲田義久 (APIRセンター長)
(パネリスト) 愛宕伸康氏 (岡三証券チーフエコノミスト)、河越正明氏 (日本経済研究センター主任研究員)、
入江啓彰氏 (近畿大学准教授)、林 万平 (APIR研究員)、木下祐輔 (APIR研究員)



02 地球温暖化対策に関する講演会 (関西経済連合会との共催)

地球温暖化対策技術の最新動向や、パリ協定で提示された新制度をテーマに開催しました。

- 講演会「エネルギー・環境イノベーション戦略とCCS技術」
■開催日：2016年10月19日 ■会場：グランフロント大阪 ■主催：APIR、関西経済連合会 ■参加者：117名
■次 第：テーマ「エネルギー・環境イノベーション戦略とCCS技術」
講演①「エネルギー・環境イノベーション戦略」梅北栄一氏 (内閣府政策統括官付 企画官)
講演②「CCS実証試験の現状と課題、将来の展望」石井正一氏 (日本CCS調査会代表取締役社長)
意見交換 (モデレーター) 有馬 純氏 (東京大学公共政策大学院教授、APIR上席研究員)
(パネリスト) 梅北栄一氏、石井正一氏、泥 俊和氏 (関経連 地球環境・エネルギー委員会 エネルギー・環境部会副会長、神戸製鋼所環境防災担当部長)
- 講演会「カーボンプライシングを考える」
■開催日：2016年12月15日 ■会場：関経連29階 会議室 ■主催：APIR、関西経済連合会 ■参加者：93名
■次 第：テーマ「長期低排出発展戦略におけるカーボンプライシングを考える」
講演①「環境と経済の両立に向けたカーボンプライシング論」手塚宏之氏 (国際環境経済研究所首席研究員、JFEスチール技術企画部理事 地球環境グループリーダー)
講演②「脱炭素社会に向けたカーボンプライシングの意義 WWFの取組について」小西雅子氏 (世界自然保護基金ジャパン自然保護室 室次長 兼 気候変動・エネルギープロジェクトリーダー)
意見交換 (モデレーター) 有馬 純氏 (東京大学公共政策大学院教授、APIR上席研究員)
(パネリスト) 手塚宏之氏、小西雅子氏、
安田俊彦氏 (関経連地球環境・エネルギー委員会エネルギー・環境部会副会長、日立造船環境エンジニアリング研究センターセンター長)